

会報

65

静岡エネルギー・環境懇談会

2021年 新年ご挨拶



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆さまには、明るい年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、何といても新型コロナウイルスの猛威ではないでしょうか。

3月下旬から国内感染者が爆発的に増え始めたため、政府は、4月7日から約1ヵ月半の間「緊急事態宣言」を発出し、感染拡大を封じ込めるために、国民に対する外出自粛と共に様々な事業者に対しても自粛要請を求めました。

また、静岡県下でも、11月以降、感染者が急増し「第三波」の様相が鮮明になり、「警戒レベル4(県内外警戒)」に引き上げられ、感染リスクはこれまで以上の高まりとなっております。引き続き、3つの密を回避する等「新しい生活様式」を徹底しながら、社会・経済活動も回していく必要があります。

エネルギー分野に目を向けますと、アメリカでは大統領選挙で当選を確実にしたバイデン氏が、トランプ政権下で離脱していたパリ協定に、一刻も早く復帰することを表明されており、復帰後は、アメリカは勿論、世界の脱炭素に向けた動きが激化することが想定されます。

国内では、菅義偉総理が「2050年に国内の温室効果ガス排出量を実質ゼロにする。すなわちカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す。」と宣言され、電源についても省エネや再生可能エネルギーの最大限の導入と共に「安全最優先で原子力政策を進める」と言及し、脱炭素化と電力安定供給の両立を実現する方針を掲げました。原子力発電は、脱炭素に向けたCO₂排出削減のみならず、電力の安定供給と国民の負担を低減し、産業競争力を確保することが可能であります。

当懇談会としては、今まで以上に次期エネルギー計画で柱となる再生可能エネルギーと原子力発電を含めたエネルギーベストミックスや地球温暖化問題の重要性を唱っていく必要があると考えております。

また、当懇談会の事業活動のひとつである放射線に関する出張授業でも2021年度に大きな変化が発生します。「新学習指導要領」の全面実施に伴い、中学校の理科での放射線教育が今までの3年生に加え、2年生でも学ぶ事になります。

教育現場から様々なニーズが想定されますが、ニーズに即した迅速な対応を心掛け、より多くの児童・生徒に「放射線を科学的に知って正しく怖がること」を唱え続けていきたいと思っております。

新型コロナウイルスが収束しない中、感染予防対策を講じながら従来の「face to face」の啓発活動に加えて、「withコロナ」を意識した事業活動にも果敢にチャレンジし、エネルギーに携わる会として、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に少しでも貢献できるよう継続して取り組んでまいります。

結びとなりますが、皆さまの今後益々のご活躍とご健勝ご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

～コロナ禍における事業活動の実施報告～

新型コロナウイルスの感染拡大は、年度当初に掲げた事業活動の展開に大きな影響を与えました。現時点においても感染拡大の収束が見えない中、「具体的な感染予防策の徹底」を図り、「with コロナ」を念頭においた事業活動となるよう展開してまいりました。コロナ禍における今年度の事業活動についてご報告します。

I 出張授業

Y市内の某小学校における開催状況

【具体的な感染防止対策】

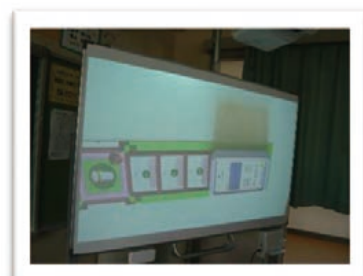
- ソーシャルディスタンス確保のため大教室を活用
- 3密の回避(霧箱実験・測定実験)のため書画装置の活用



【ソーシャルディスタンスの確保(講義)】



【書画装置を活用した霧箱実験(実技)】



【書画装置を活用した測定実験(実技)】

II 企画展への出展

【具体的な感染防止対策】

- ブース設置場所の間隔の確保
- 待ち列の表示(1.5m間隔)
- 手指消毒液の設置
- 資機材用アルコールの設置
- 会場の換気
- 対面机へのビニールカーテンの設置
- 事前健康チェック票の提出(当日検温)

(1)「サイエンスフェスティバルinる・く・る 2020」(8月16日開催:来場者77名)



【ブース全体写真】



【ビニールカーテンを挟んでの説明】



【1.5m間隔を保った待ち列】

(2)「こどもみらいプロジェクト秋まつりinツインメッセ」(10月10日・11日開催:来場者225名)



【ブース全体写真】



【来場風景】

【来場者の感想】

- ・食べ物の中に放射線があるなんて知らなかった
- ・シーベルトの単位の意味がわかった
- ・家でも実験してみたい

Ⅲ 放射線セミナー

【従来のセミナー】集合型イベント(カルチャー教室+講師による講演)

【変更後のセミナー】

メディア(ラジオ放送・新聞での番組宣伝・情報紙等での記事体広告)を活用した情報発信!

(1)こんな時期だからこそ出来ることはないか?

従来の集合型イベントでは、「県内コロナ感染者が拡大=イベント中止」が心配されたことから、コロナ禍でも実施可能である「メディア力」を活用し、静岡県内に居住する方々に対し広く情報発信できる手法を選択。

(2)セミナーの流れ

ア ラジオ放送

ラジオ番組:2020年11月15日(日)11:00~11:30放送

「聞いてなっとく!放射線(30分 特別番組)」

パーソナリティ:長谷川玲子氏 ゲスト:岡田往子氏(東京都市大学 理工学部 原子力研究所 客員准教授)

公開録音



ラジオ放送



ラジオの採録記事掲載(静岡新聞夕刊)

イ 掲載情報紙「アステン」の女性サポーターとの座談会

ラジオ公開録音後の座談会



座談会の採録記事掲載(静岡新聞「アステン」「びぶれ」)

(3)内 容

「私たちの身の回りに常にある、暮らしの中にも使われている放射線」

放射線ってどんどころにあるの? 食べ物にも放射線が含まれているって本当?など、普段学ぶ機会の少ない放射線について、ゲストの岡田往子氏より解り易く教えていただいた。また、収録現場では、卓上霧箱により、空気中にあるラドンからでた放射線が通った跡を見ることができ、パーソナリティ始め女性サポーターから驚きの声があがった。

収録後は、情報紙の女性サポーター2名に参加していただき座談会を実施。



【公開録音の様子】



【分かり易く話をする岡田客員准教授】



【卓上霧箱観察の様子】

女性目線での放射線に関する話、ラジオ収録で感じたことなど、お話しいただいた。

(4)新聞・情報紙での「番組宣伝・記事体広告」について



【11/12 静岡新聞朝刊掲載「番組宣伝」】



【12/3 静岡新聞夕刊掲載記事】



【12/5「アステン」 12/24「びぶれ」 掲載記事】

今後の主な行事予定(1~3月)

◆出張授業

静岡県内の高等学校(3校:4日間)・中学校(6校:9日間)・小学校(1校:1日間)

◆体験!科学実験2021inふじ

開催日:2021年1月24日(日)

開催場所:ラホール富士 多目的ホール

編 集 後 記

- ◆2020年6月23日付で副会長の大石 実様が梅原 弘充様に交代されましたのでお知らせいたします。大石様には4年間に亘りご指導・ご鞭撻いただき誠にありがとうございました。
- ◆コロナ禍で「face to face」の活動が制約される中、「今出来る事は何?」を自問自答し、多くの方へのエネルギー・環境に関する情報発信に努めて参ります。(K.S)
- ◆出口の見えないコロナ禍に、縁あって私たちの活動に耳を傾けてくださる方々に感謝。これからも「伝える」ではなく「伝わる」を心掛けて活動を続けてまいります。(H.O)
- ◆コロナ禍においても、少しでも多くの皆さまに「エネルギーのこと、放射線のこと」をお届けできるよう、取り組んでまいります。(M.T)
- ◆「コロナ禍」大きな影響がでていますが、こんな時こそ新たな発想・行動がとれるチャンスです。何事にも前向きに行動あるのみ。(M.N)



〒420-0032 静岡市葵区両替町2丁目4-15(静岡O.Nビル8階)

静岡エネルギー・環境懇談会

TEL(054)253-4140

FAX(054)253-4160

